

# 大垣市農業委員会だより

第6号

平成27年1月1日発行

編集/発行 大垣市農業委員会  
(大垣市丸の内2丁目29番地)  
☎ 0584-81-4111 (内線532)  
Fax 0584-81-4899

## 新年のご挨拶

大垣市農業委員会

会長 岩井 豊太郎



あけましておめでとうございま  
す。

皆様におかれましては、輝かし  
い新春をお迎えのことと心からお  
祝い申し上げます。

昨年を振り返つてみますと、2月  
に山梨県下で観測史上最も積雪が  
多く、サクランボやブドウ畑に大き  
な災害をもたらしました。また、  
7月下旬に広島県を襲つた台風  
は、山間地域の崩壊、土砂災害に  
より多くの人命が失われ、甚大な  
被害をもたらしました。さらに、  
9月には、御嶽山の噴火により多  
くの人命がなくなり、火山灰によ  
る農作物の被害も発生しました。  
このように昨年は、自然災害によ  
る被害が多く発生しました。本県

には2度ほど台風が襲来しました  
が、地域的な被害がありました。

一方、政治の世界では、11月末  
に突然衆議院が解散され、師走の  
総選挙となりました。選挙結果は、

自公政権が衆議院の3分の2以上  
の勢力となり、国会運営はスムー  
ズに進むものと思います。選挙の  
最大の争点は、消費税増税を当初  
の予定より一年半先延ばしすること  
によるアベノミクスの経済政策  
の是非を国民に問うということ  
で、農業問題はほとんど争点にな  
りませんでした。

今年は、新しい安倍政権のもと、  
憲法改正、農協法改正の是非、  
TPP交渉、原発再稼働、集団的  
自衛権行使容認関連法案整備な

ど、日本の今後を形作る根源的問題が明白押しで、国論を二分する大きな政治課題が控えていました。中でも私たち農業者にとつて最大の課題は、農協法改正問題です。アベノミクスの第三の矢である成長戦略の中で、農業分野における規制改革がどのように取り組まれるか、という問題です。

昨年は、「新たな農業、農村政策」

の取り組みが始まり、その政策が掲げる四つの政策とは、①農地中間管理機構の創設、②経営所得安定対策の見直し、③水田フル活用と米政策の創設、④日本型直接支払制度の創設であります。このような政策に取組む背景として、農業就業人口の減少と高齢化の進行、耕作放棄地の急増、担い手の減少が挙げられます。

農協法改正に伴い農業協同組合制度、特に中央会制度の在り方、農業委員会制度、農地制度の改革が検討されます。

本年は、TPP問題も含めて日本農業の大きな転換点になると思われます。こうした農政の大きなうねりの中で大垣市の農業の在り方を議論し、情報を農家の皆さんに発信していきたいと存じます。本年もご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

大垣市農業委員

吉田和郎



## 良い地にまかれた種は百倍に

平成26年7月に、静里地区の農業委員に選出していただいて、農地パトロールの実施、農業委員会に提出される農地転用の案件の承認など、農地の保全や活用に関わらせていただいております。

米・麦・大豆の栽培に取り組んでいます。ブロッコリーの栽培は、昨年、一昨年と冬期の厳しい寒さに見舞われ苦戦していますが、大垣の特産品

として認められつつあり、頑張りどころです。  
聖書には「良い地にまかれた種は百倍の実を結ぶ」という言葉があります。先輩諸氏や地域の方々の協力を得ながら、明るい農業の実現に少しでも尽力していくらと考えていています。



大垣市農業委員

長澤逸男



## 青墓地区の紹介

当地区は大垣市の北西部に位置し、冬は伊吹おろしの吹きつける寒さ厳しい場所です。昔から美味しいお米の产地として知られています。農地は農振区域がほとんどで、土地改良・西濃用水の導水も済んでいます。地形は、山際西方から緩やかな傾斜があり、米づくりの時は、水管理に大変苦労しています。

また、小規模の兼業農家が多く、高齢化や後継者不足もあり不作付地の発生に繋がっています。青墓地区の将来を多面的に考えた時、誰からも親しまれ、夢がある魅力ある儲かる事業になるよう取り組まなければ、担い手も現れないのではないかとうか。

今後は将来を見据えた的確な計画の元に、環境保全を考えた農用地の活用、再開発が必要であると思われます。課題は山積ですが、地域の特性を十分把握して柔軟に対応しつつ、農業委員として微力ながら進めて行きたいと思います。皆様のご理解とご協力をお願いします。



## 研修視察を実施

農業委員会は、11月14日(金)に滋賀県甲賀市にある「農業法人 有限会社甲賀もち工房」と守山市にある「JAおうみ富士」を視察しました。

「甲賀もち工房」がある甲賀市小佐治地区は、「日本一のもち米」とも称される滋賀羽二重糰の生産地で、「もちを特産品に!!」を合言葉にまちおこしが行われています。中心になっているのが今回視察した「甲賀もち工房」で、良質なもち米の生産から、加工、販売まで一貫して手がけ、地域も農家も元気にするコミュニティービジネスを展開しています。新商品の開発も積極的に行うなど、六次産業化を積極的に進めています。また、1998年には消費者や次世代を担う子供たちへのもち文化の伝承と交流を目的にした催し「甲賀もちふる里まつり」を実施しています。今では、県内外から4千～5千人を集める秋の恒例イベントに成長しています。

また、「JAおうみ富士」の管内の園芸特産品は、メロンや果樹、花卉を中心に県内有数の産地として京阪神の市場から高い評価を受けています。地域の特性である少量多品目生産を活かし、消費者志向に添った直売の拡大を行うなど地産地消に取り組んでいます。また、市民が農業体験として作付けや収穫を行う「青空フィットネスクラブ」と題した取り組みなど、地域農業の発展に寄与しています。

いずれも、六次産業化や地産地消に取り組むことにより元気な地域づくりを行っている先進的な事例であり、今後の活動の参考とすることことができました。



＜甲賀もち工房で特産品の説明を受ける参加者＞



＜JAおうみ富士で取り組みの説明を受けました＞

### 「農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」の提出を忘れずに!

農業委員会の選挙人名簿は、毎年1月1日現在における資格を調査し、登録しなければなりません。

選挙人名簿の登載は、申請によって行われますので、1月9日(金)までにお配りした登載申請書の提出をお願いします。

## 耕作放棄地解消対策事業を実施

耕作放棄地解消対策事業を、11月21日（金）に大垣市池尻町地内で実施しました。

長年耕作されずに放置されている農地がありましたが、地域の担い手である農業法人の「株式会社西濃パイロット（代表 木村 嘉孝さん）」が、所有者から農地を借り受け、来年度から耕作を再開することにより、草刈機で草刈りを行いました。今後、利用権設定を行い、農地復元後は、水稻の栽培が行われる予定です。

農業委員会では、平成26年度から新たな組織運動である「農地を活かし、担い手を応援する全国運動」を発足し、「遊休農地の発生防止・解消対策」に引き続き力を入れて取り組んでいます。

今後とも、地域の担い手の方と連携を取りながら農地の再生を行い、有効利用の促進を図っていきます。



＜雑草を草刈りする様子＞



＜草刈後の農地＞

## 大垣市農地賃借料情報

平成26年1月から12月までに、農業経営基盤強化促進法に基づき利用権設定された賃借料および農地法第3条許可により設定された賃貸借における賃借料水準は、次のとおりです。

＜田（水稻）の部(10a当たり)＞

締結（公告）された地域名	平均額（円）	最高額（円）	最低額（円）	データ数	使用貸借によるもの（賃借無料のもの）
大垣地域	4,000	5,000	3,000	120	771
上石津地域	7,200	8,000	5,000	4	267
墨俣地域	4,600	5,000	4,000	55	46

※市街化区域は除く

老後の備えは  
万全ですか？

〃メリットいっぱい！〃 国が支える担い手積立年金

農業者年金に加入しよう！

加入要件  
60歳未満

国民年金 第1号被保険者

年間60日以上農業従事

3つの要件を満たせば  
どなたも加入できます！

※有利な国民年金の付加年金も併せて加入ください。

【お問い合わせ・申し込み／大垣市農業委員会 または 岐阜県農業会議 ☎058-268-2527】

みんなで築こう 人権の世紀 ~考え方相手の気持ち 育てよう思いやりの心 ~